

---

## 開会の挨拶

武田信照

〈愛知大学学長〉

国際シンポジウムを開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。愛知大学は現代中国学の構築を目指して、国際中国学研究センター（略称 ICCS）を発足させました。本日から3日間にわたって開催される「激動する世界と中国」をテーマとする国際シンポジウムは、ICCSが展開を予定している主な企図のうち、最初に手がける本格的な活動でございます。ご承知かと思えますけれども、文部科学省は2002年度から21世紀 COE プログラムをスタートさせました。このプログラムの目的は、大学院博士課程レベルを対象に、世界最先端の研究教育拠点の形成を重点的に支援することにあります。厳しい競争の中から、このプログラムに本学の国際中国学研究センターの構想が採択されたことは、誠に名誉なことございました。

この構想には3つの目的、柱がございます。1つは、情報技術を活用して、中国に関する国際的な研究ネットワークを構築し、愛知大学がそのハブセンターになるということにあります。2つは、国際シンポジウムと5つの国際的な研究会を組織して、現代中国学構築のために、高いレベルでの学問的交流と対話を成立させることでもあります。3つは、大学院中国学研究科の海外合作コースを中国の人民大学と南開大学に設けることなど、大学院の国際化を通して、優れた若い人材を養成することでもあります。これらの目的が実現されれば、それはわが国の中国研究をさらに一段高い段階に押し上げてくれるものと信じて疑いません。国際的な研究会の発足を視野に入れた本日からシンポジウムは、言うまでもなく、今申し上げた第2の目的を実現するための試みであります。本日のシンポジウムは、第1日目の全体セッションと3日目の締めくくりのセッションの間に、政治、経済、文化、環境の4分野にわたって、それぞれのセッションが設けられており、激動する世界の中での現代中国の動向と変容との全体像を掘り下げて把握することが企図されております。この目的のために、わが国はもとより、アジアと欧米から優れた業績を持つ多数の著名な中国研究者のご協力をいただくことができました。今回のシンポジウムが文字通り、質の高い国際シンポジウムであることを自負できるのも、このご協力があったればこそであります。基調報告やディスカッションをお引き受けいただいたこれらの方々に、大学を代表して、心より厚くお礼と感謝とを申し上げます。

愛知大学は第二次世界大戦敗戦直後、それまで中国は上海にあって、日中提携のための人材養成を目的とした東亜同文書院大学の関係者が中心となって設立された大学でありま

す。前身校の伝統を受け継いで、中国を対象とする研究教育は創立以来、常に重視されてまいりました。大学院に中国研究科、学部で現代中国学部を持つ大学は他にはございません。この伝統と実績に加え、国際中国学研究センターの今後の諸活動、諸事業を通して、本学の个性的特色を一層発展させていきたいと考えているところでございます。

最後に、この国際シンポジウムにご参加いただいた皆さまに厚く御礼申し上げますとともに、本日の報告と討論から、多くの有益な示唆が得られることを期待して、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。